実践報告2022

〈MMC：地域デザイン演習Ⅰ〉

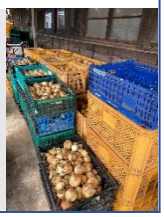
小田原玉ねぎプロジェクト

開催日時：2022年 5月 7日（土）　10：00～16：00

開催場所：小澤農園（小田原市小竹）

参加人数：計15人、履修者５名　社会教育課程３名　他５名

担当教員：磯田浩司非常勤講師



○コンセプト：ローカルな知を学ぶ

ローカルSDGsの推進の一歩として、第２弾「おだわらプロジェクト」

○小田原市の農業について（小田原市農政課　片野徳教氏より）

■地域課題

・農業従事者の高齢化、担い手・労働力の不足

・有害鳥獣や外来生物による農作物被害

・経営耕地の減少

■目指す姿

・地域農業をさせる人材の確保・育成

・有害鳥獣への対応→ジビエ利用の拡大、捕獲活動の強化

・特産品のブランド化

・農業体験の機会創出・情報発信

○学生ニーズ

世代や地域を越えた交流がしたい、心躍る未知の体験がしたい、私の「役立つ」を体感したい

○学習方法

ワークキャンプの手法を活かした社会教育プログラムの体験を通して、実践力を高める。

○連携・協力

小田原市農政課　片野徳教氏、小澤農園　小澤明人氏、JAかながわ西湘青年部　岸幸雄氏

○内容

耕作放棄問題や、農業の担い手不足を抱える小田原市のたまねぎ農家で、玉ねぎの収穫から発送作業を体験し、地域の人や学生同士の繋がりを作る。

9：40	JR東海道線二宮駅集合
10：00	小澤農園到着
	・小田原市農政課より
	・農作業の方法を聞き、玉ねぎを収穫する。
12：00	昼食、オリエンテーリング
13：00	出荷作業、農家さんからの講話
16：00	解散

■私たちは今回出荷作業まで行わなかったが、それでも自分達の収穫した玉ねぎのどれくらいの量が消費者の手元に届くのかということが気になり、目の前にある玉ねぎの行方が心配でたまらなかった。そして、何より農家の方々がいるおかげで、食物を育て、収穫、市場に出回るという一連の流れを無事に行うことができるのだということを目の前に感じた。無事に市場に出回るところまでいけなければ、私たちは生命を維持することができていないのだと思うと、普段、なんて甘えて生きているのだろうという気持ちを抱いた。 農業体験をしたことで、農業で生計を立てている人たちの思いや苦悩、食べ物をいただくことのありがたみを知ることができたので、大学生になってからこのような経験ができたのは貴重だったと思う。（中家）

■私は今回の小田原実習を通して沢山の感情の変化を経験しました。実習に行くまでは、あまり触れたことの無い玉ねぎの収穫や農家の 人々に会えることがとても楽しみでした。いざ実習当日になり、小沢さんや岸さんの高齢化やブランド化への熱心な思いといったお話を聞いて、自分の今までの知識の不足に少し恥ずかしくなりました。しかし、学年や年齢や立場関係なくみんなで他愛のない話をしながら作業することで、1 人でああしようこうしようとしていた自分がいなくなっている気がしました。今回の実習は地域の人々との連携の大切さだけでなく農家の現状や農作業の大変さ、幅広い年齢層との関わる新鮮さなど沢山のことを私に教えてくれ、とても刺激になる貴重な体験となりました。（松島）

■今回の下中玉ねぎの農業体験を通じて、農業の有り難さを感じました。 私は野菜が好きで特に玉ねぎは幼少期の頃から大好物でした。そんな玉ねぎの収穫をして、発送するまでの過程を知ったり、農業体験をしていくうちに日々農業をされている農家の皆様に有難みを感じました。今私たちが美味しい野菜を食べられるのは農家の皆様のおかげでもあることをこの農業体験を通じて理解することが出来ました。今後の食事も農家の皆様に感謝して頂こうと思いました。（九嶋）

■複数人で同じ気持ちを共有し合うことでより充実した体験になった。小澤さんの畑では家族で農業をし、ときどき仲間が手伝いに来るという話を聞いた。1 人でやるよりも複数人で作業をすることで効率が良くなる。農作業中に農家の方が「学生さんたちと一緒に話しながらすると時間があっという間だ」と話していた。私もあっという間に時間がすぎて驚いた。同時に、農家の方の生の声を聞きながら、作業への気持ちを共有し合い、農作業を学べるという密度の濃い時間だったと思う。これは複数人で 1 つの作業をすることのメリットであると考える。またこういった機会があればぜひ参加したい。(伊藤)

■イノシシによる農業への被害が甚大という山間部の農業の問題点を当事者の方から話が聞けて、本で学ぶ以上に記憶に残りました。オレンジなどの果実も食べてしまうイノシシは他の地域よりも美味しい肉になっていると仰っていて、食べてみたくなりました。　小澤さんの奥様とお話をしているときに、岸さんの家ではタマネギを収穫した後、その畑に田植えをするということを聞き驚きました。小田原はタマネギ収穫が5月であり、田植えも5月から始まるから、時期が重ならないからだそうです。私の実家もタマネギとお米を育てていますが、必ず別の土地で育てます。実家の長野県安曇野市は標高が高く、気温が小田原より低いです。そのため、タマネギの収穫は6月になり、田植えは5月に始まるのでお米とタマネギを同じ土地で育てることは不可能になります。地域の環境に合わせたそれぞれの野菜の育て方があることを発見しました。　今回、ワークキャンプのような実習に初めて参加しましたが、みんなと一緒に共通の仕事をやり切った達成感は最高でした！広大な畑にタマネギ、マルチがなくなったという目に見える結果があり、「お疲れ様」と言い合える仲間がいることでより実感が湧きました。反省として、作業に没頭すると黙って会話をしなかった時があったので、作業と会話を同時に楽しめるようになりたいと思います。（石田）